

株式会社サン・パートナーズ様の事例

BCMS の登録範囲
コンサルティング、教育研修、監査サービス及び関連するソフトウェアの開発・検証
BCMS を構築したきっかけと目的
<ul style="list-style-type: none"> ・当社の事業継続(従業員とその家族等の人命やサプライチェーン確保を含む)を確実にすることによって社会的責務を果たすこと。 ・東日本大震災以降、顧客からの BCMS への期待度が高まっていることを感じており、顧客の事業継続(従業員とその家族等の人命やサプライチェーン確保を含む)及び社会的責任の達成、品質や信頼性等への支援が命題である当社の事業において、有事の際に直ちに顧客への各種支援が可能な体制作りと、対外的証明のために ISO22301 認証取得活動を行った。 ・当社では、有事においても可能な限り事業を縮退させることなく継続する「ACTIVE BCMS」を以前から提唱・教育・訓練を行って推進してきており、今回はその「ACTIVE BCMS」を具現化する一助とした。 ・当社内では、以前より自主的に事業継続については先進的な取り組みを行ってきていたが、ISO というグローバルスタンダードを導入することで、より社内に定着させるための一助とした。 ・弊社の「創立 10 周年記念プロジェクト」の一環として、国内初となる認証取得の取組みに挑戦した。
BCMS に取組んで改善されたこと(事業継続戦略の実行状況、認証取得のメリット等)
<ul style="list-style-type: none"> ・上記目的が達成されたことと、当社の BCMS (ACTIVE BCMS) が社外に対しても明言され、ステークホルダーに当社のポリシーとして知っていただくことができたこと。 ・当社 BCMS の目的及びその詳細、重要性等が明確化され、再認識されたこと。
BCMS 構築・運用を通して気付いたこと(目標復旧時間達成状況[実践や演習等を通じた]についても)
<ul style="list-style-type: none"> ・当社では、会社全体の業務の洗い出しと組織体制・設備・経営資源等の観点からも事業継続健全性チェックを行い、その中で不足気味であった有事の「人のバックアップ(代替)体制」を定期的に見直し、「個人・組織の 2 重化」を強化・推進してきている。有事の際、その体制が確実に運用可能なものであるためには、定期的及び随時の点検や各分野の教育・訓練等を常に積重ねる必要性があることを再認識した。 ・現状のオフィス以外の場所(遠隔地)において、オフィスと同程度のセキュリティレベルを確保した業務が再開できるようリモート環境を構築の必要性を再認識し、想定外を考慮した訓練を行ってきた。(国内:全国主要都市、海外:北米、欧州、アフリカ、オーストラリア、アジアの主要都市にて実施) ・IT 分野については、暗号化したデータの遠隔地バックアップや、「ACTIVE BCMS」を実践するために必要な各種冗長化対応を推進してきている。(メールプロバイダやクラウドの 2 重化、多重バックアップ等を計画・推進中)
BCMS を構築した時に苦労したところ
<ul style="list-style-type: none"> ・本規格の各項目が要求している深度と当社「ACTIVE BCMS」の実現とのバランスを図りつつ分析や文書化等を行ってきたため、若干の時間を要したこと。 ・あらゆる「想定外」を想定し、対応してきたこと。(災害等の規模や種類、性質等に左右されないアプローチに基づく)

東日本大震災やタイ洪水等、実際の脅威が発生した際にBCMSを構築・運用していたおかげで助かった点や課題

- ・当社は災害に強い堅牢な建物に入居しており、ビル側との事前打合せにおいても、無理に帰宅するリスクより、あらゆる面でリスクが少ないことから、発生当時、社員に対して即座に社内に留まることを推奨したものの、それでもなお帰宅を強く望む社員が少なからずいた事に、有事の際の従業員の家族も含めた意識統一の必要性を痛感した。現在では、有事の際は原則社内待機というポリシーを十分に理解してもらい、また家族に対しても各自がそのことについて事前協議し、全ての社員から同意を得るに至った。
- ・震災が発生した直後に、備蓄物が万全な状況でないと感じた。その後、各自の緊急持出袋の中身と質（関連する新たな製品・物品等の発表時などに検討し、必要に応じて追加）を再点検するとともに、2～3日社内待機となった場合の飲料及び食料、毛布等の確保を行い、以後定期的に見直しを行っている。
- ・発生直後から、当社代表から当社顧客に対して、人命、経営資源及びセキュリティ等を確保するための留意点について定期的にメールで連絡を行ったところ、多くの顧客から「あまりのことに動転しそうになっていたところ、適確なアドバイスによって把握・確認すべきことや、取るべき行動が明確になり、冷静に対処することが出来た」との評価をいただいた。

組織(経営)戦略実現のための、事業継続の位置付け

- ・BCMSの実現は、当社にとって最も重要な経営課題である。
- ・当社がより高い次元でのBCMS(ACTIVE BCMS)の構築と運用を目指し、維持・向上していくことで、顧客に万全なBCMS構築の支援が可能となり、「顧客の事業継続(サプライチェーンを含む)・従業員・家族までも守る」という本件における当社目的を達成することができる。
- ・有事の際に、顧客へのアドバイスを含む継続的支援を行う必要性があると考えているため、当社の目指す「ACTIVE BCMS」を適切に構築・運用し、事業を継続させていくことが、当社にとっての社会的な責務であると位置付けている。

BCMSを取得してよかったところ、他者にBCMSをお勧めするとすればどういうところが良い点か

- ・当社のBCMSの棚卸を行うことで、ボトルネック等を認識し強化できる、良いきっかけとなった。
- ・日本は特に自然災害が多い国であるため、ISO認証取得は国際的な“お墨付き”を得ることになるため、海外との取引や海外展開を行っていたり、検討している企業にとっては安心材料になる(相手先の要求への対応や社内外の安心感や信頼感の向上につながる)。
- ・事業インパクト分析等を行う中で、ボトルネックとなっている事象を詳細に可視化することができ、全事業レベルで自社の弱点の補強や強化が可能となる。(人、物、金、情報、時間、場所 等)

BCMS規格に対する問題点・改善提案

- ・より広く一般に普及するためには、より詳細な内容に対するガイド等が必要であると思われる。